笑顔かがやく光っ子　みんなで育てる光っ子

学校便り

第３５８号
平成２８年７月１日

練馬区立光が丘第八小学校
校　長　　鈴　木　隆　志

カ リ ヨ ン と 共 に

校　長　　鈴木　隆志

先月８日は光が丘第八小学校の開校記念日でした。光八小は、平成元年４月１日に開校しました。練馬区立の小学校として６８番目に開校したことから、６月８日を開校記念日としたのです。翌年に光六小が開校し、光が丘地区には第一小から第八小まで、８校のナンバースクールが誕生しました。平成２２年度の光が丘地区小学校適正配置によって、第一小から第七小までがなくなり、光八小は、光が丘地区唯一のナンバースクールとして、今に続いています。

光八小は、オープンスペース教室として開校しましたが、平成２０年度の教室冷房機導入に伴い、教室の仕切りが設置されました。広い廊下、大きな体育館、そして時計塔のある瀟洒な校舎は、開校以来、変わりありません。

時計塔にはカリヨンの鐘があります。時計塔のカリヨンは、地域のランドマークとなっています。カリヨンの鐘の音は、光が丘や田柄の町にも届いています。毎朝８時に『牧場の朝』のメロディーが流れます。光っ子たちは、カリヨンの鐘の音を合図に、元気よく校庭に走り出し朝遊びを始めます。光八小の登校時間は８：００～８：２０、その中で８：００～８：１５は朝遊びができる時間です。子供が適度な運動をすることは、脳の活性化につながり、学習への集中にも期待ができるはずです。

さて、カリヨンから流れる『牧場の朝』を紹介します。杉村楚人冠・作詞、船橋栄吉・作曲によるこの曲は、昭和７年に文部省唱歌に制定されました。曲のふるさとは、福島県鏡石町と須賀川市とにまたがる岩瀬牧場です。岩瀬牧場は、明治初期に国内で初めての西欧式牧場として開設されました。明治４０年にはオランダから乳牛１３頭と農機具を輸入、その際に日本とオランダの友好の印として「鐘」が贈られました。その鐘は今も岩瀬牧場に残っています。『牧場の朝』はその鐘と岩瀬牧場のイメージをもとに作られた曲なのです。

ただ一面に立ちこめた／牧場の朝の霧の海／ポプラ並木のうっすりと／黒い底から勇ましく／鐘が鳴る鳴る　かんかんと
もう起き出した小舎（こや）小舎（ごや）の／あたりに高い人の声／霧に包まれ　あちこちに／動く羊の幾群（いくむれ）の／鈴が鳴る鳴る　りんりんと
今さし昇る日の影に／夢からさめた森や山／あかい光に染められた／遠い野末に牧童の／笛が鳴る鳴る　ぴいぴいと

光八小を牧場に、光っ子たちを羊たちに例えるのは失礼かもしれませんが、夜が明けて朝になり、光八小に光っ子たちが集う様子は、『牧場の朝』に重なります。光っ子たちは、光八小という学舎で一日を過ごし、頭の栄養、心の栄養、体の栄養をたっぷりと吸収し、成長をしていきます。

夕方の４時には、カリヨンから『遠き山に日は落ちて』のメロディーが流れます。ドヴォルザーク作曲の『家路』です。光っ子たちは、カリヨンの鐘の音を聞きながら、それぞれのおうちへと帰っていくのでしょう。親たちは子供が元気に帰ってくることに幸せを感じます。筆箱の鉛筆の減り具合を見て、こんなに勉強をしたんだなと思うこともあるでしょう。そして、家族の愛情に包まれながら、子供たちは明日を迎えるための眠りにつきます。家庭は子供たちの生きる力の源です。

開校以来変わらぬカリヨンの鐘の音は、光っ子たちに「おはよう」と「またあした」のメロディを届けてくれています。今年入学した１年生のある子が、光八小の誕生日を祝って、絵のプレゼントを校長室に届けに来てくれました。学校を大好きになってくれたんだなと、とても嬉しく思いました。